

# デーヴォ ガイド



2023.9.4-10

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

## 礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

## セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合いましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

## 家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

## L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合いましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。  
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。



- 3:1 ですから、天の召しにあずかっている聖なる兄弟たち。私たちが告白する、使徒であり大祭司であるイエスのことを考えなさい。
- 3:2 モーセが神の家全体の中で忠実であったのと同様に、イエスはご自分を立てた方に対して忠実でした。
- 3:3 家よりも、家を建てる人が大なる栄誉を持つと同じように、イエスはモーセよりも大なる栄光を受けるにふさわしいとされました。
- 3:4 家はそれぞれだれかが建てるのですが、すべてのものを造られたのは神です。
- 3:5 モーセは、後に語られることを証しするために、神の家全体の中でもべとして忠実でした。
- 3:6 しかしキリストは、御子として神の家を治めることに忠実でした。そして、私たちが神の家です。もし確信と、希望による誇りを持ち続けさえすれば、そうなのです。
- 3:7 ですから、聖霊が言われるとおりです。「今日、もし御声を聞いたら、
- 3:8 あなたがたの心を頑なにしてはならない。荒野での試みの日に神に逆らったときのように。
- 3:9 あなたがたの先祖はそこでわたしを試み、わたしを試し、四十年の間、わたしのわざを見た。
- 3:10 だから、わたしはその世代に憤って言った。『彼らは常に心が迷っている。彼らはわたしの道を知らない。』
- 3:11 わたしは怒りをもって誓った。『彼らは決して、わたしの安息に入れない。』」

御使いよりも優位であり、神と同等の権威ある存在、礼拝されるべき神そのものであられること、さらには人となって苦しみによって人の救いを全うした大祭司であることが論証されました。

しかしここでイスラエルの家という歴史を貫く共同体においてはどのように位置づけられるのか。その点において語られています。イスラエルの共同体はモーセによって、またモーセの律法によって導かれてきました。それはモーセが「家」に対し忠実であったがゆえです。しかし「家よりも、家を建てる者が大きな栄誉を持つ」のですから、「家」というイスラエル共同体よりも「家を建てる者」であるイエス様が大きな栄誉をもつことは当然です。モーセはイエス様ご自身に忠実であるはずだということです。

ですから私たちもイエス様に忠実であってこそ、共同体を建て上げるという栄誉にあづかることができます。共同体とは12節にもあるように教会であり、教会とは「確信と、希望による誇りとを、終わりまでしっかりと持ち続ける」私たちであり、そのような信仰によって働くクリスチャンの群れなのです。

イエスを思い、イエスの願いを思い、イエスに忠実に生き、イエスの家である教会を建て上げましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 5日 火曜

### へブル



それらを神様に委ねて、自分をそのまま神様に見られていることを覚えて、自分自身の現実の姿を認めましょう。

3:12 兄弟たち。あなたがたのうちに、不信仰な悪い心になって、生ける神から離れる者がないように気をつけなさい。

3:13 「今日」と言われている間、日々互いに励まし合って、だれも罪に惑わされて頑なにならないようにしなさい。

3:14 私たちはキリストにあずかる者となっているのです。もし最初の確信を終わりまでしっかり保ちさえすれば、です。

3:15 「今日、もし御声を聞くなら、あなたがたの心を頑なにしてはならない。神に逆らったときのように」と言われているとおりです。

3:16 では、聞いていながら反抗したのは、だれでしたか。モーセに率いられてエジプトを出た、すべての者たちではありませんか。

3:17 神が四十年の間、憤っておられたのは、だれに対してですか。罪を犯して、荒野に屍をさらした者たちに対してではありませんか。

3:18 また、神がご自分の安息に入らせないと誓われたのは、だれに対してですか。ほかでもない、従わなかった者たちに対してではありませんか。

3:19 このように、彼らが安息に入れなかったのは、不信仰のためであったことが分かります。

イスラエルは神に選ばれた民でしたが、それは神様の救いが必要であることを身をもって明らかにするためでした。彼らは律法を守りきれなかったため、その身に苦難を招きました。それは反面教師であった、実は私たちの姿でもあるのです。

神様の声を聞きながら、すなわち御心と気づいていながら、従っていないことはないでしょうか。多くはここに表されているイスラエルの民のように、プライドや保身が原因であることも多いものです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 6日 水曜

### ヘブル



4:1 こういうわけで、私たちは恐れる心を持つようではありませんか。神の安息に入るための約束がまだ残っているのに、あなたがたのうちのだれかが、そこに入れなかったということのないようにしましょう。

4:2 というのも、私たちにも良い知らせが伝えられていて、あの人たちと同じなのです。けれども彼らには、聞いたみことばが益となりませんでした。みことばが、聞いた人たちに信仰によって結びつけられなかったからです。

4:3 信じた私たちは安息に入りますが、「わたしは怒りをもって誓った。『彼らは決して、わたしの安息に入れぬ』」と神が言われたとおりなのです。もっとも、世界の基が据えられたときから、みわざはすでに成し遂げられています。

4:4 なぜなら、神は第七日について、あるところで「そして神は、第七日に、すべてのわざを終えて休まれた」と言われ、

4:5 そのうえで、この箇所、「彼らは決して、わたしの安息に入れぬ」と言われたからです。

4:6 ですから、その安息に入る人々がまだ残っていて、また、以前に良い知らせを聞いた人々が不従順のゆえに入れなかったので、

4:7 神は再び、ある日を「今日」と定め、長い年月の後、前に言われたのと同じように、ダビデを通して、「今日、もし御声を聞かぬら、あなたがたの心を頑なにしてはならない」と語られたのです。

4:8 もしヨシュアが彼らに安息を与えたのであれば、神はその後に別の日のことを話され

ることはなかったでしょう。

4:9 したがって、安息日の休みは、神の民のためにまだ残されています。

4:10 神の安息に入る人は、神がご自分のわざを休まれたように、自分のわざを休むのです。

4:11 ですから、だれも、あの不従順の悪い例に倣って落伍しないように、この安息に入るように努めようではありませんか。

イスラエルは神に従わなかったので、安息にはいることはできなかつたとあります。しかし実際には約束の地カナンに入ったのです。ここで言っているのは、永遠の安息であつて、神が全てを創造された後に7日目に休まれたと創世記に記されているような、たましいの安息であり永遠の救いの安息です。

すなわちヘブル人には救いに至るための信仰が必要なのだということです。私たちに關して言えば、救いをいただくために心をかたくなにはしないで、福音を信じました。これは神様からの恵みですが、私たちはこれを素直に受け取つたのです。ですから、これからも謙遜な心で神に頼り恵みをいただき、そして感謝と信頼の心で従つていきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあつて何を実践しますか？



## 7日 木曜

### ヘブル



4:12 神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄を分けるまでに刺し貫き、心の思いやばかりごとを見分けることができます。

4:13 神の御前にあらわでない被造物はありません。神の目にはすべてが裸であり、さらけ出されています。この神に対して、私たちは申し開きをするのです。

4:14 さて、私たちには、もろもろの天を通られた、神の子イエスという偉大な大祭司がおられるのですから、信仰の告白を堅く保とうではありませんか。

4:15 私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯しませんが、すべての点において、私たちと同じように試みにあわれたのです。

4:16 ですから私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいて、折にかなった助けを受けるために、大胆に恵みの御座に近づこうではありませんか。

神のことばの偉大な力をどれほど分っているでしょうか。私たちの心の奥底まで見抜き、そして変える力を持っています。神のことばの前に、神の權威を認めてひれ伏しましょう。へりくだって従いましょう。

その權威とはあわれみ深い、そして優しく愛に満ちた權威です。私たちの優れているところをほめてくださるだけでなく、弱さにも寄り沿って「同情」してくださるのです。

いついかなる時も、この主に近づくようにしましょう。この全能にして愛の主と心の交わりをしなければ、本当の人生は送れません。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 8日 金曜

### へブル

5:1 大祭司はみな、人々の中から選ばれ、人々のために神に仕えるように、すなわち、ささげ物といけにえを罪のために献げるように、任命されています。

5:2 大祭司は自分自身も弱さを身にまとっているのに、無知で迷っている人々に優しく接することができます。

5:3 また、その弱さのゆえに、民のためだけでなく、自分のためにも、罪のゆえにささげ物を献げなければなりません。

5:4 また、この栄誉は自分で得るのではなく、アロンがそうであったように、神に召されて受けるのです。

5:5 同様にキリストも、大祭司となる栄誉を自分で得たのではなく、「あなたはわたしの子。わたしが今日、あなたを生んだ」と語りかけた方が、それをお与えになったのです。

5:6 別の箇所でも、「あなたは、メルキゼデクの例に倣い、とこしえに祭司である」と言っておられるとおりです。

5:7 キリストは、肉体をもって生きている間、自分を死から救い出すことができる方に向かって、大きな叫び声と涙をもって祈りと願いをささげ、その敬虔のゆえに聞き入れられました。

5:8 キリストは御子であられるのに、お受けになった様々な苦しみによって従順を学び、

5:9 完全な者とされ、ご自分に従うすべての人にとって永遠の救いの源となり、

5:10 メルキゼデクの例に倣い、神によって大祭司と呼ばれました。

5:11 このメルキゼデクについて、私たちに話すことがたくさんありますが、説き明



かすことは困難です。あなたがたが、聞くことに対して鈍くなっているからです。

5:12 あなたがたは、年数からすれば教師になっていなければならないにもかかわらず、神が告げたことばの初歩を、もう一度だれかに教えてもらう必要があります。あなたがたは固い食物ではなく、乳が必要になっています。

5:13 乳を飲んでいる者はみな、義の教えに通じてはいません。幼子なのです。

5:14 固い食物は、善と悪を見分ける感覚を経験によって訓練された大人のものです。

イスラエルの大祭司は、キリストのひながたにしか過ぎません。人間の大祭司は自分も罪がありますし、また動物をささげます。しかし本当のとりなしてすなわち永遠の大祭司であるイエス様は、罪がなく、ご自分をささげられたのです。

それを知っている私たちは、もっとイエス様に感謝して、恵にお返しすることができるのではないのでしょうか。「あなたがたは年数からすれば教師になっていなければならないにもかかわらず、神のことばの初歩をもう一度だれかに教えてもらう必要があるのです。」などと言われないように、恵を感じる霊的センサーを大人にしたいと思えます。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 9日 土曜

### へブル



6:1 ですから私たちは、キリストについての初歩の教えを後にして、成熟を目指して進むではありませんか。死んだ行いからの回心、神に対する信仰、

6:2 きよめの洗いについての教えと手を置く儀式、死者の復活と永遠のさばきなど、基礎的なことをもう一度やり直したりしないようにしましょう。

6:3 神が許されるなら、先に進みましょう。

6:4 一度光に照らされ、天からの賜物を味わい、聖霊にあずかる者となって、

6:5 神のすばらしいみことばと、来たるべき世の力を味わったうえで、

6:6 墮落してしまうなら、そういう人たちをもう一度悔い改めに立ち返らせることはできません。彼らは、自分で神の子をもう一度十字架にかけて、さらしものにする者たちだからです。

6:7 たびたび降り注ぐ雨を吸い込んで、耕す人たちに有用な作物を生じる土地は、神の祝福にあずかりますが、

6:8 茨やあざみを生えさせる土地は無用で、やがてのろわれ、最後は焼かれてしまうのです。

6:9 だが、愛する者たち。私たちはこのように言うてはいますが、あなたがたについては、もっと良いこと、救いにつながることを確信しています。

6:10 神は不公平な方ではありませんから、あなたがたの働きや愛を忘れてたりなさいません。あなたがたは、これまで聖徒たちに仕え、今も仕えることによって、神の御名のために愛を示しました。

6:11 私たちが切望するのは、あなたがた一人ひとりが同じ熱心さを示して、最後まで私たちの希望について十分な確信を持ち続け、

6:12 その結果、怠け者とならずに、信仰と忍耐によって約束のものを受け継ぐ人たちに倣う者となることです。

「基礎的なことをもう一度やり直したりしないように」とあります。信仰の基礎、聖書にある大切な教理などをしっかりと持っているでしょうか。もしも不安があるなら、恐れることも恥じることもありません。牧師に相談すべきです。指導者はそのような人のためにいるのであって、それを教える導くのは彼の仕事です。

「神のすばらしいみことばと、後にやがて来る世の力を味わったうえで、6:6 しかも墮落してしまうならば、そういう人々をもう一度悔い改めに立ち返らせることはできません。」とあります。この墮落とはキリストを否むことであって、完全に罪を犯さないようにあることを求めているではありません。

しかし、みことばとやがて来る世の力（神の国の力）を味わった人は、罪を犯してもそれに気づき、主の前に悔い改めることができるものです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## ▶ 10日 日曜

### ヘブル



6:13 神は、アブラハムに約束する際、ご自分より大いなるものにかけて誓うことができなかつたので、ご自分にかけて誓い、

6:14 「確かにわたしは、あなたを大いに祝福し、あなたを大いに増やす」と言われました。

6:15 このようにして、アブラハムは忍耐の末に約束のものを得たのです。

6:16 確かに、人間は自分より大いなるものにかけて誓います。そして、誓いはすべての論争を終わらせる保証となります。

6:17 そこで神は、約束の相続者たちに、ご自分の計画が変わらないことをさらにはっきり示そうと思い、誓いをもって保証されました。

6:18 それは、前に置かれている希望を捕らえようとして逃れて来た私たちが、約束と誓いという変わらない二つのものによって、力強い励ましを受けるためです。その二つについて、神が偽ることはあり得ません。

6:19 私たちが持っているこの希望は、安全で確かな、たましいの錨のようなものであり、また幕の内側にまで入って行くものです。

6:20 イエスは、私たちのために先駆けとしてそこに入り、メルキゼデクの例に倣って、とこしえに大祭司となられたのです。

神様はご自身の権威によって、将来を約束してください。その権威は決して損なわれることはありません。その約束こそが私たちの錨です。すなわち嵐や大波にも流されない守りの力なのです。

イエス様を信じる者は、そのような神の約束の力を信じているということですから、その信仰が錨のような安心と将来をもたらすのです。

誰でも何か不安要素をかかえているでしょう。腐心して状況を変えようとすることは悪くないでしょ

うが、解決に至らないことは多いものです。先ず何よりも、先の先まで見通して最善の導きをくださる神様の権威のもとに行きましょう。そして見えない神の御手のゆえに安心しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

